

燃

成人向

おそろく
だがな

第七師団か

首謀者は
死んだって？

北海道で
謀反を図った
という

死体は
見つかってない





死神の右腕か

あれが
鬼軍曹

おお



あれは喋らん



ほう

小柄だが
屈強な兵士だ

素手で
ロシアの大男に
勝ったらしい

それでいて
記憶力がいい
らしいが



今は中尉
です

こちらへ
呼び寄せる際
昇進させました



一連の真相を
黙っておくことが
奴なりの忠義
なんだろう

ママ
ママ
胴^胸体なければ
右腕も
機能しまい



海軍少将の
嫡男が
いただろう
少尉
だったか



なので
今は我々の
監視下に
あるが

ゆくゆくは
鯉登を取り込んで
陸軍最強の
戦力を...

いや



鶴見は
鯉登のことを
お気に入り
と
いいつつ

いい関係とは
いえなかった
そうです



第七師団へ
送り込んだ者たち
によると



まだ
警戒をとくには
早い



月島を
引き抜き…ですか



人材育成には
協力するつもり
ですが…

私も
あの鬼軍曹に
育てられた身です



このたび
士官学校を
出た者が
入隊してな

教育係を
付けたい

なに
ずっととは
言わん
臨時の話だ



月島軍曹と
離れるのは
不都合か？



……

ああ
ありがとう



どうぞ
自慢の部下です
お役立て
ください

月島も進んで
引き受ける
でしょう



……いえ

部下を
統率するのに
頼りになる男
ですから

不在となると
少し弱気になっ
ただけです



一緒にしておき
たくないのですね

——鶴見中尉殿の
近くにいた我々を



——だが

何せ
戦争が
控えている
我々が
信用に値するか
試しているのだ

おそらく
そうだろう



はし

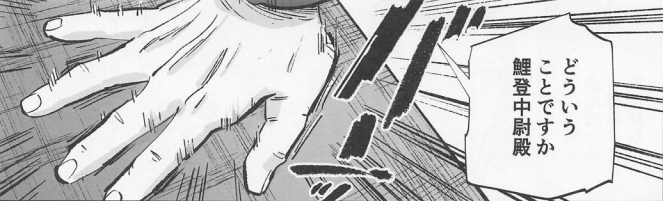


私も
奴らが
一筋縄で行くとは
思っていない

ス







どういう
ことですか
鯉登中尉殿



月島軍曹が
第七師団を
離れるなど

大幅に
人員も減って…
こんな
大事な時に…

なんだ
なんだ



中央が
決めたことだ

奴らは
統率者たちを
引き離して

我々を
弱らせる
気かも：

鶴見中尉殿の
もつともそばにいた
部下2人が揃って
指揮を務めるのだ

二人で何か
企んでいる
と思われても
無理はない

そ…
そんな
ことは

そうかもな

ないと
どうやって
信じてもらう？

今の我々が
彼らの信用を
獲得するためには

大人しく命令に従う
ほか道はない

キッ

悪いが
堪えろ

おまえ
部下たちを
守るために

月島も
飲んだ

お前たち
だって
そうだろう？

私は
月島の思いを
汲みたいのだ



聞き耳
立ててる暇が
あったら
体でも鍛えろ

し…
失礼しました

『強い』ことは
我々の免罪符
でもある

あっ
オマエら
し…



鯉登中尉殿は
金塊騒動を経験して
大きく成長なされた

ああ



…さすがだな

至極冷静で
いらっしやる



俺の方が何年も
軍人やってるのに
取り乱して…
情けねえや

まあまあ
気持ちちは分かるぜ

冷静な
わけがあるか



私は
耐えてみせる

しかし

お前も
それを望む
だろう

月島

月島





ぺこ

補佐官と
どうだ

上手く
やっているか

はい！

鯉登中尉殿の
右腕から直々に
教育を受けられて
大変光栄であります！

…そうか

それは
よかった

私も
少尉時代は
可愛がられた
もんだ

たくさん
叱られて
鍛えられる
といい

鯉登中尉殿！



今後も
貴君の成長に
大いに期待している

よく学び
よく鍛え

この国のため
ともに戦おう



はい!!

.....!

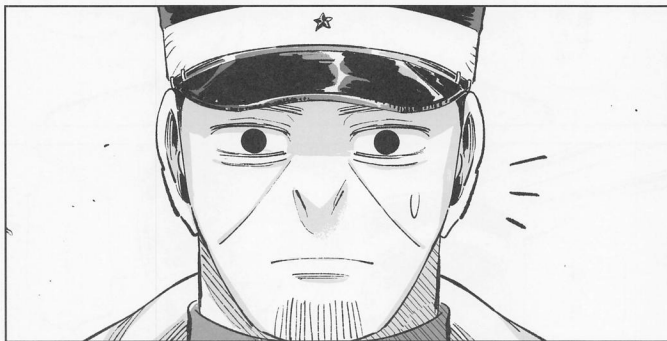


月島軍曹も
引き続きよろしく
やってくれ

はい

では
私は失礼する

ありがとう
ございましたツ!!





実に
楽しい会だ

次の店は
どうしよう
か

いや
私はこの辺
で……



なんだあ
鯉登帰って
しまうのか

忙しいん
だろう

上官を
失った上に
今は右腕も不在
なものな

苦労してる
だろうぜ



おいそこ
何してる？





お前ら
軍人か

兵營の外で
何やってる

あ…

いや…

そこに
並べ

おい
立てるか

なんだって
こんな歓楽街で
喧嘩になるんだ

まったく…



お前は…

ん？



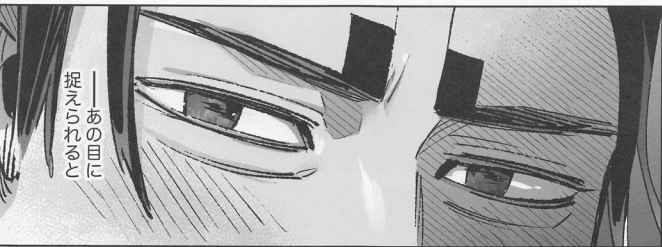




鯉登少尉

駅が
見えて
きましたよ

そろそろ
準備を…



—あの目に
捉えられると



体が
熱くなる

奥底から
静かに燃えたぎる
よっな

あのー

洗い物か？

そっちでの
仕事はどうだ？

…はい

私たちは
偶然すれ違った
だけだ

！
こ…
声を
抑えろ

上層部が
鶴見中尉殿を
注視していた
ようですが

若い勢はむしろ
憧れる者が
多いようです

悪くない
ですよ

所属部隊の
人間とも
交流しており
ます



上官として
勇ましく
大きくなるひとです



マア
男所帯とはいえ
親密な関係の
二人がいれば
よくある話ですが

彼にはまだ
そういう色事は
新鮮なの
でしょう

親密…

それで
お前は
何と言って
なだめたのだ

…私は

もちろん

「鯉登中尉殿は
不純なことをする
ような人ではない」と
言いましたよ







戦争が始まる



鯉登中尉

歴戦の兵士から
初年兵まで
取りまとめられる

優秀な指揮官が
欲しい

君を大尉に
推薦しようと
思う



第七師団を
第一線に立たせたい
ということか



分かりました

お引き受けがてら
ひとつ
よろしいですか

何かね？

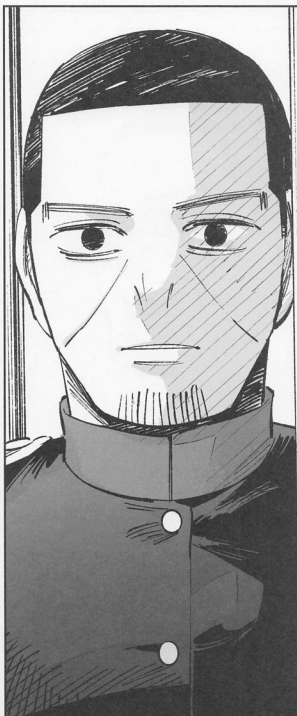
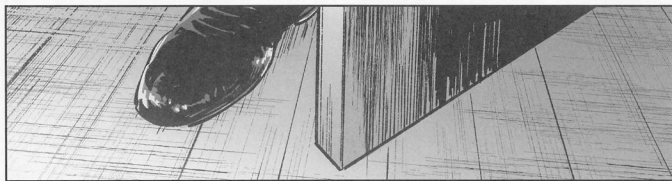


私からも
お願いが
あります——



時に
月島

お前の
好きなものは
何だ？





このたび
大尉に
昇進した

お前もじき
曹長の内示が
出るだろう

…おめでとう
ございます



…あ

よく戻った
月島



燃えている



あは



会いたかった

俺が
燃
さ
れ
て
い
る
の
か



...

...あ

月島...

ツキシマッ...!







…そんな顔
しないでください



…ずっと
こうしたかった

ずっと…



私が
どんなに
身を焦がしたか




お前には
分かるまい



あいつのために
お前が世話を焼く
たび

お前が
あいつの名前を
呼ぶたび





俺もずっと
こうしたかった

今になって
自覚するなんて

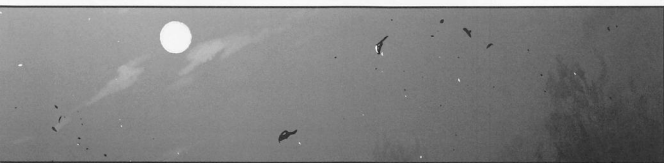


嫉妬だろっが
怒りだろっが

彼の炎に
焼かれることが



こんなにも
嬉しいなんて



上官たちの
前で…!?

えっ

お願いが
ありまして

月島軍曹を
返して
いただきたい

また
とっぴな
二つ...

お前も
戻りたいと
言ったらろ

新任から
聞いたぞ

月島のためならと
奔走したらしいが
効果があったかは
不明だな

彼が
頑張って
くれたん
ですか

自覚を持て

：ツキシマは
もっと



モス!



燃
十

鯉月、

生涯右腕

ま、とう
おめでとう!

サークル名: 生姜醤油
作者: 醤油
Twitter: @jiangyoushoyu
印刷所: 株式会社サングループ 様
発行日: 2022年12月11日発行
(少尉殿につきっきり DR2022)

※本書は非公式ファンブックであり、各権利者とは一切関係ありません。
※無断転載、無断引用、オークションへの出品はご遠慮ください。
※Unauthorized copying prohibited



ゴールデンカムイファンブック

鯉登音之進 × 月島基